

平成30年11月14日(水)
日本産婦人科医会 記者懇談会



多機関多職種連携による 性暴力被害者支援活動の現状について

性暴力救援センター日赤なごやなごみ
片岡 笑美子

性暴力被害者と思われる患者数(推定)

救急外来

警察からの依頼件数 約5～7件/年間

虐待・DV関連(権利擁護把握数) 約100～120件/年間

産婦人科外来

受診数 約20～25件/年間

性暴力救援センター日赤なごやなごみ開設経緯

2014.3.2	講演会開催 「医療現場における暴力被害者への急性期介入と支援の重要性」 小西聖子氏 武蔵野大学臨床心理センター長、精神科医 「性暴力救援センター大阪SACHICOの現状」 加藤治子氏 SACHICO代表、産婦人科医
2014.5.14	大阪阪南中央病院 大阪SACHICO見学
2014.10.4～1.31	性暴力被害者支援看護師(SANE)養成講座2014
2014.10～11	産婦人科医・救急医と情報交換・説明、ハード面調査
2014.12.7	ワンストップ支援センター設立に向けて幹部会提案・了承
2015.2.18	ワンストップ拠点病院準備委員会発足(院外委員)
2015.4.1	ワンストップ拠点病院プロジェクト発足(院内)
2015.6.28～8.28	アドボケーター(支援員)養成講座
2015.7.16	第1回愛知県警察本部打ち合わせ
2015.10.10～12.2	性暴力被害者支援看護師(SANE)養成講座2015 弁護士打ち合わせ
2016.1.5	性暴力救援センター日赤なごやなごみ開設
2016.2.28	なごみ連携推進会議発足(2ヶ月1回)

性暴力救援センター日赤なごやなごみの特徴

- ・病院拠点型ワンストップ支援センターとして2016年1月5日開設
- ・救命救急センターの特徴を活かし、24時間365日ホットラインに対応し、救急医療、緊急医療処置を行っている。
- ・支援体制として、性暴力被害者支援研修を受講した支援員(アドボケーター)、性暴力被害者支援看護職(SANE)を育成し、危機介入を行い、医師と連携しながら身体的、心理的支援を行っている。
- ・精神看護専門看護師(米国ANCC認定)が介入し、PTSDに移行しないように心理的支援を行い、精神科医療機関と連携を図っている。
- ・性暴力被害者支援MSWを専従で配置し、社会資源の活用、各機関各職種とのコーディネーターとしての役割を担っている
- ・各機関各職種の専門性を活かした連携で支援につなげる

病院拠点型を推進する理由

性暴力被害者支援は医療そのもの
早期からの危機介入が回復につながる

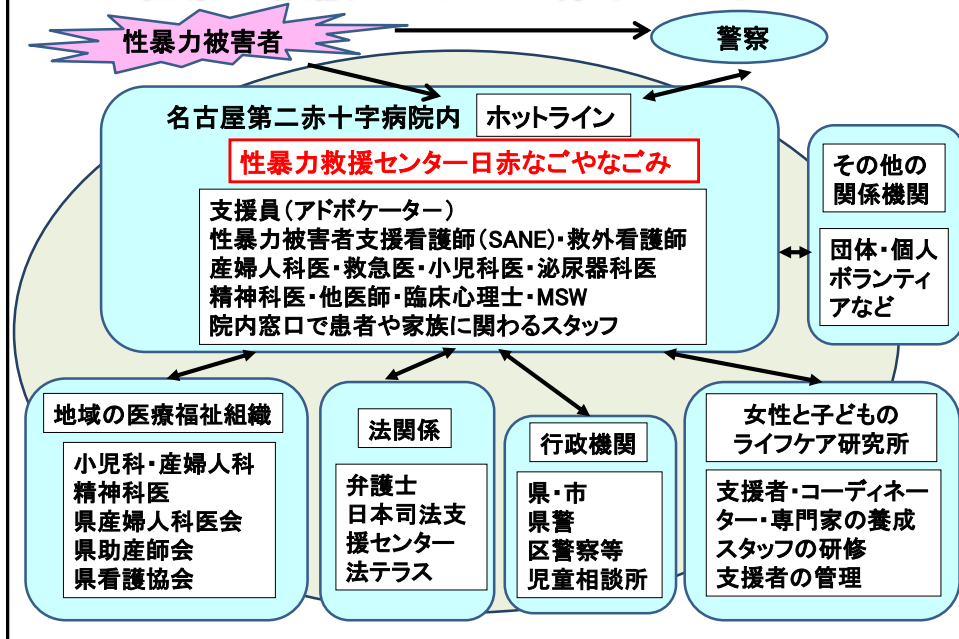
医療者側 ・24時間対応可能

- ・性暴力にかかる総合的診断
- ・緊急医療処置(緊急避妊ピル・感染症検査)
- ・総合的ケアの提供
- ・証拠採取ー内診は医行為
- ・性暴力被害者支援看護師(SANE)による身体的・心理的支援が有効(性教育)
- ・性暴力被害者の早期発見(DV・性虐待)
- ・性暴力被害者の潜在化の防止

被害者側

- ・身体のことを相談できる(傷害や感染症、妊娠、中絶、出産等)
- ・負担が少ない(一カ所で支援が受けられる)
- ・病院には来やすい。相談しやすい

性暴力救援センター日赤なごやなごみ



なごみ関連会議

【なごみ連携推進会議】

2ヶ月に1回

目的：被害者支援体制の構築
関連機関との連携強化の推進

委員

院内：SANE・MSW・産婦人科医・小児科医
精神科医・泌尿器科医・看護師・MSW

院外：県関連・市3部署・弁護士
産婦人科医・法医学医・精神科医・
警察・検察・**児童相談所（H30年より）**
ライフケア研究所・NPO

【なごみ運営委員会】

2ヶ月に1回

目的：運営に関すること
施設・設備に関すること
院内の連携強化

委員

産婦人科医・小児科医・救急医・精神科医・
泌尿器科医・看護師・臨床心理士・検査技師・
MSW・事務

事例検討会

目的 性暴力被害者支援員の質向上に勤める。
関係機関との連携を図る

参加者 アドボケーター・SANE・MSW・医師
関係機関（警察・行政女性相談・支援団体）

1. ケースカンファレンス・ミニレクチャー（2016年4月～）

開催回数 毎月1回 17:30～19:00

2. 弁護士拡大事例検討会(2018年～)

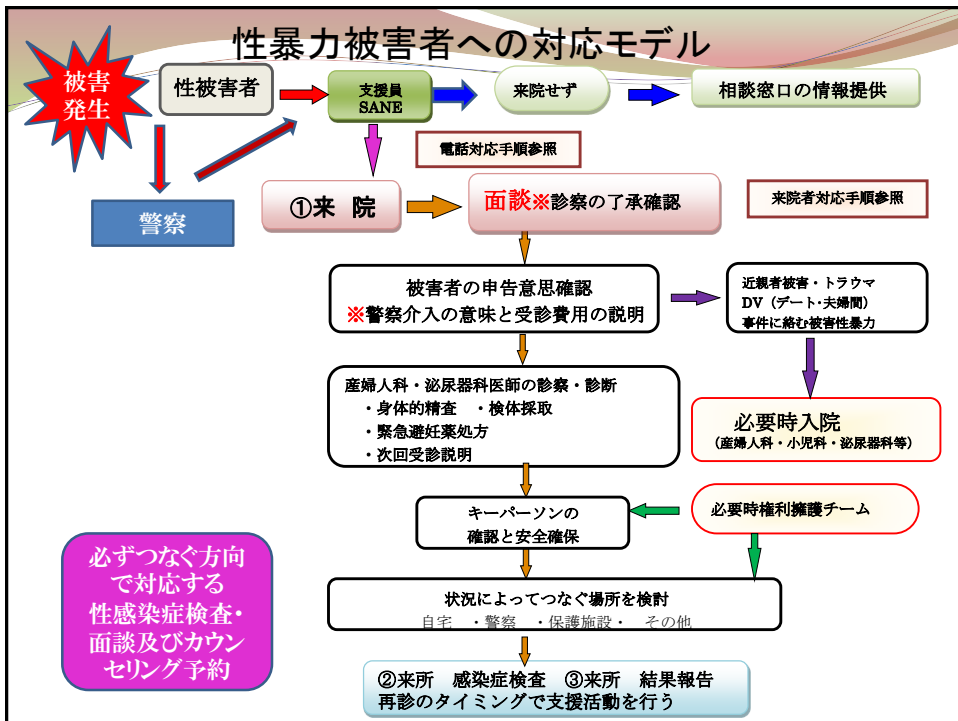
開催 第一回 2018年5月28日
参加者 なごみ登録弁護士

3. 精神科医療機関事例検討会

開催 第一回2018年11月20日予定
参加者 精神科医療センター医師・臨床心理士・MSW・SANE等

ワンストップ支援センターの核となる機能

- ・ 支援のコーディネート・相談
専門的知識、被害者の気持ちに寄り添う
- ・ 救急医療・産婦人科医療
外傷、妊娠・感染症の有無
レイプ被害から72時間以内に避妊薬服用(ノルレボ錠1.5mg)
感染症の潜伏期に応じて検査(一ヶ月後)
- ・ 継続的な医療
中絶、出産
- ・ 心理的支援—PTSDの予防及び対応
- ・ 証拠採取等
レイプキッド、保管
- ・ 警察など関係機関・関連団体等へ確実につなぐこと



1. 24時間ホットライン体制

大事にしていること

被害者がいつでもかけたいときにつながる

体制 支援員(8:45~20:45) SANE(20:45~8:45)
電話回線は1回線にて、15分以内で対応

気持ちに寄り添い、話を傾聴し、必要な情報の提供、できる支援について説明する。

緊急度の確認と安全確認

被害発生72時間以内はすぐに来所を促す

2. 面接相談

大事にしていること

相手の気持ちにより添う

できることを一緒に考える

体制 完全予約制
SANEが対応する
被害状況を確認し、なごみができることを説明

診察および証拠採取、警察への通報等の同意確認

子どもの時は常に司法面接手法を意識する

3. 緊急医療支援

大事にしていること

被害による身体的・心理的不安を緩和する

体制 性暴力被害による全身状態の確認と診断
産婦人科医療
妊娠の可能性と予防
レイプ被害から72時間以内に避妊薬服用
(ノルレボ錠1.5mg)
性感染症検査(通常は1ヶ月後)
子どもには負のボディイメージを回復
男性被害者時は泌尿器科医対応
証拠採取
警察通報有無にかかわらず採取可能
継続的医療の必要性
中絶(21週6日まで)・出産

4. 心理的支援

大事にしていること

いつでもつらくなったら電話してよいことを伝えておく

体制 初めて来所したときに心理的状況を把握

心理的不安が強いときは精神科医に相談する
低学年の子どもに対しては小児精神医へ相談

被害直後の時はPTSD移行しないように、精神看護
専門看護師の面談を勧め、予約する

PTSD症状の確認を行い、治療の必要性を説明する

必要時、精神科医療機関を紹介し、協働して支援する

5. 法的支援

大事にしていること

いつでも要望に応じて相談できる体制

体制 県警への相談
警察届出事案はなごみへ連絡
証拠採取キットの常備(2017.10～県警と協定書)
警察通報による来院、速やかな対応

弁護士33名登録
性暴力・虐待・DV関連各担当者1名が
2週間毎のシフトで対応
被害直後からの相談対応
初回相談はなごみで対応可能

6. 生活支援

大事にしていること

被害者の安全・安心な生活をめざす

体制 多機関多職種との連携を有効に活用する

社会的資源を最大限活用する

顔の見える関係を日頃から築く

7. 同行支援

大事にしていること

同行することで、被害者が必要とする
機関につながり、訴えることができる

体制 声が出せない・出しにくい被害者の権利を
擁護し、必要に応じて同行支援を行うこと

初回、警察・法律事務所・精神科医療機関
など行くときに同行する

警察官・弁護士がなごみで対応するときに
同席する

8. なごみ連携ケースカンファレンス

大事にしていること

被害者を中心に学校・仕事・生活が継続できる
ように速やかにチームで支援する

体制 本人および必要に応じて家族も参加

ケースに関係する機関が一同に集まり、
情報交換および支援内容を検討する

本人の同意の元、支援を行う

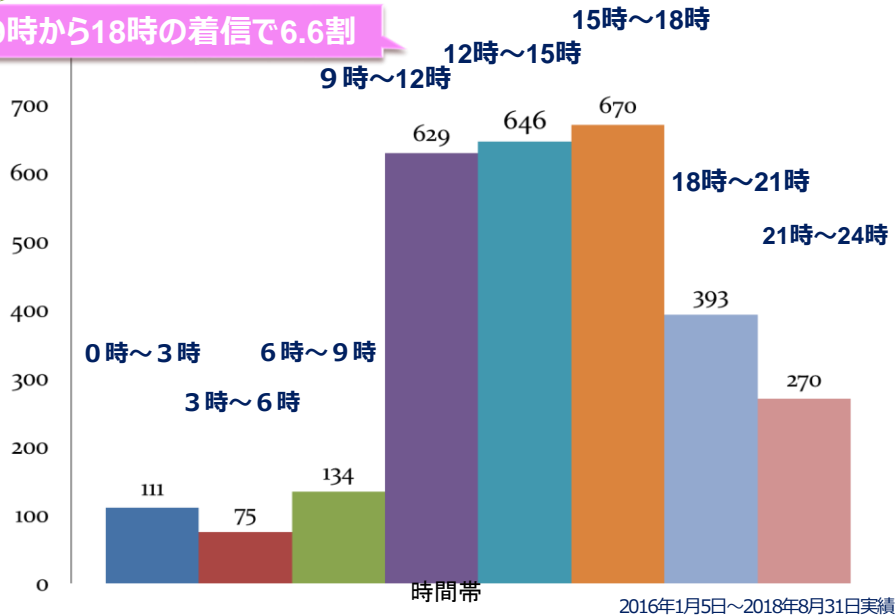
2016年1月5日～2018年8月31日
2年8ヶ月の総計

電話延べ件数	2928件
来所延べ件数	639件
診察延べ件数	250件
新規受付実人数	511名
そのうち面談相談実人数	244名

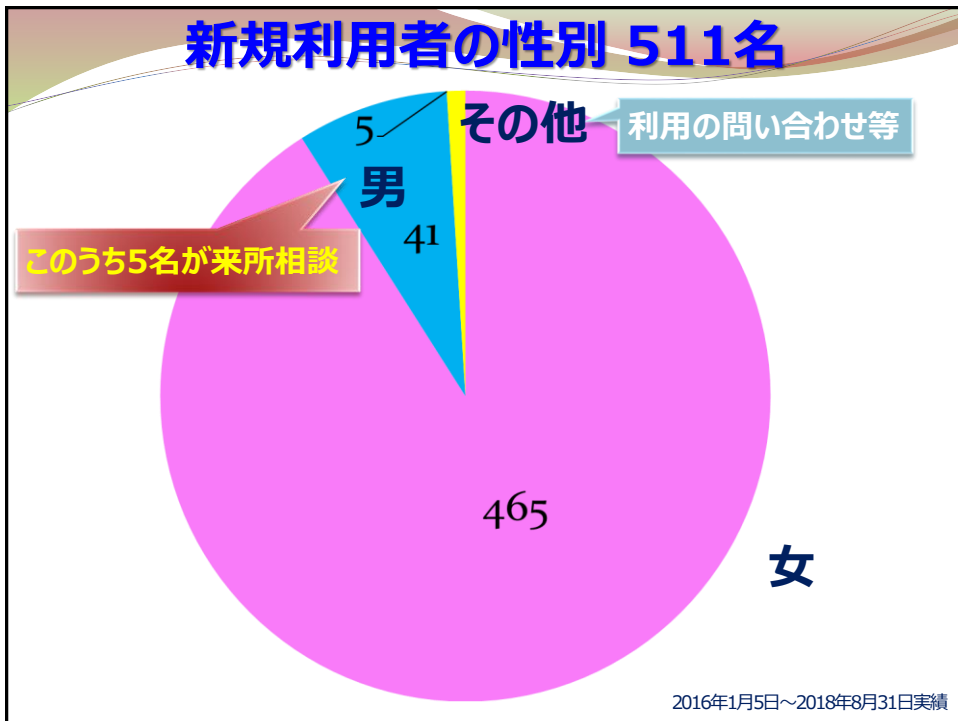
		2016年1月5日～2018年8月31日												
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
電話のべ	2016年基準													43
	2017年													195
	2018年													90
来所のべ	電話100%													81
	来所100%													22
	診察100%													36
診察のべ	電話100%													73
	来所100%													7
	診察100%													30
新規受付実数	新規100%													73
	来所100%													84
	診察100%													54
うち来所実数	新規100%													78
	来所100%													37
	診察100%													79
		7	11	14	4	8	14	6	15					

電話の着信時間 2928件

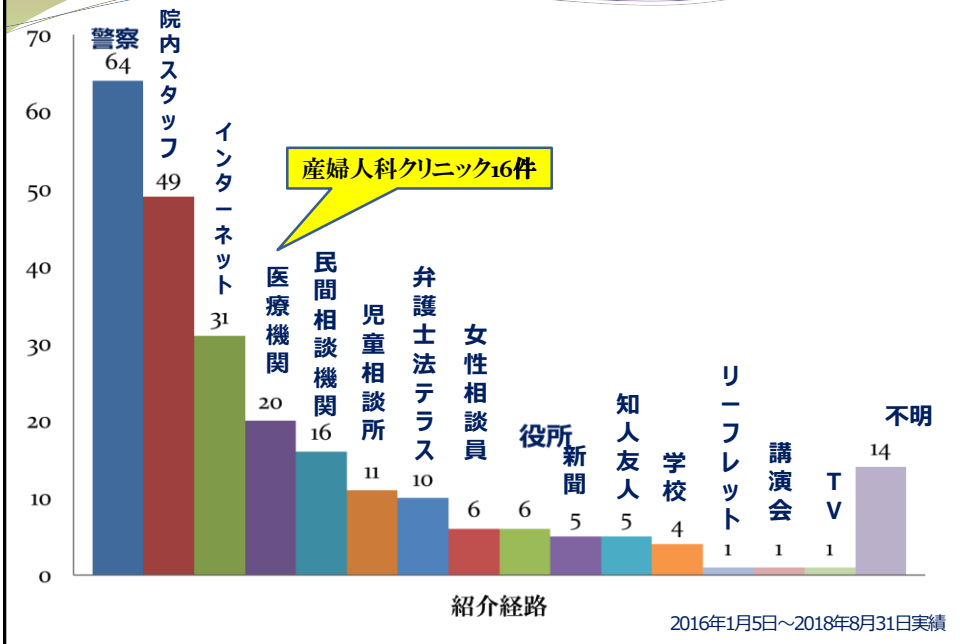
9時から18時の着信で6.6割



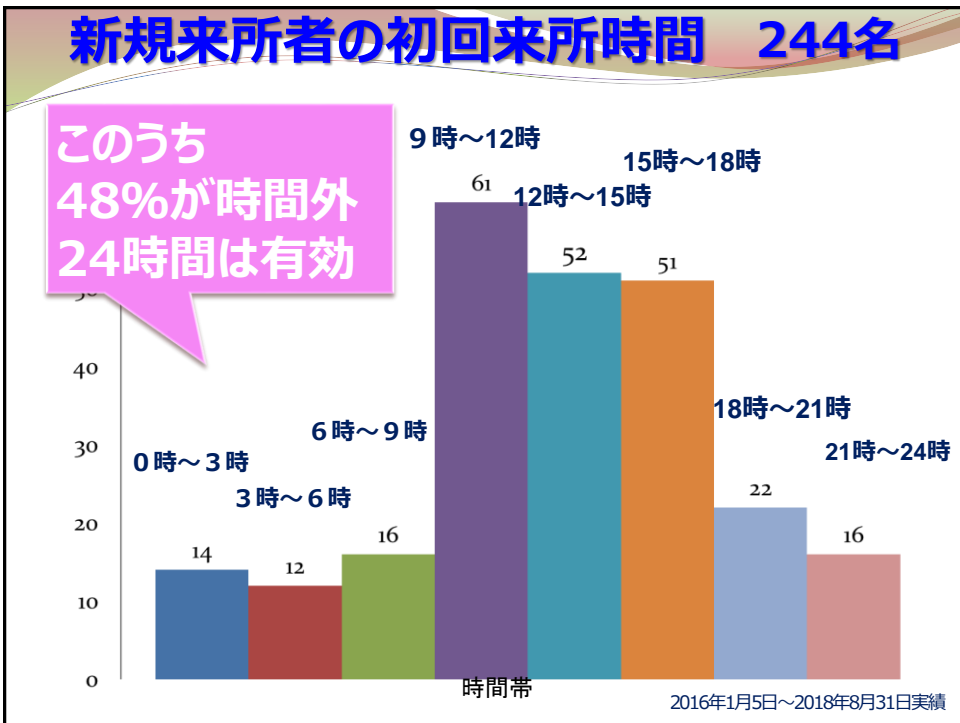
新規利用者の性別 511名

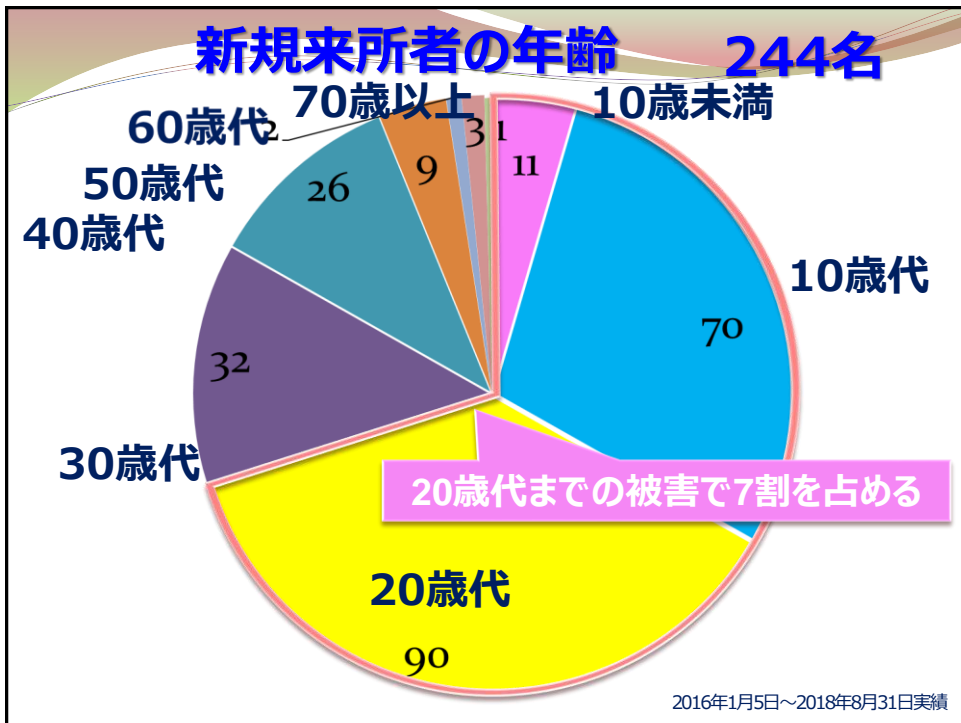
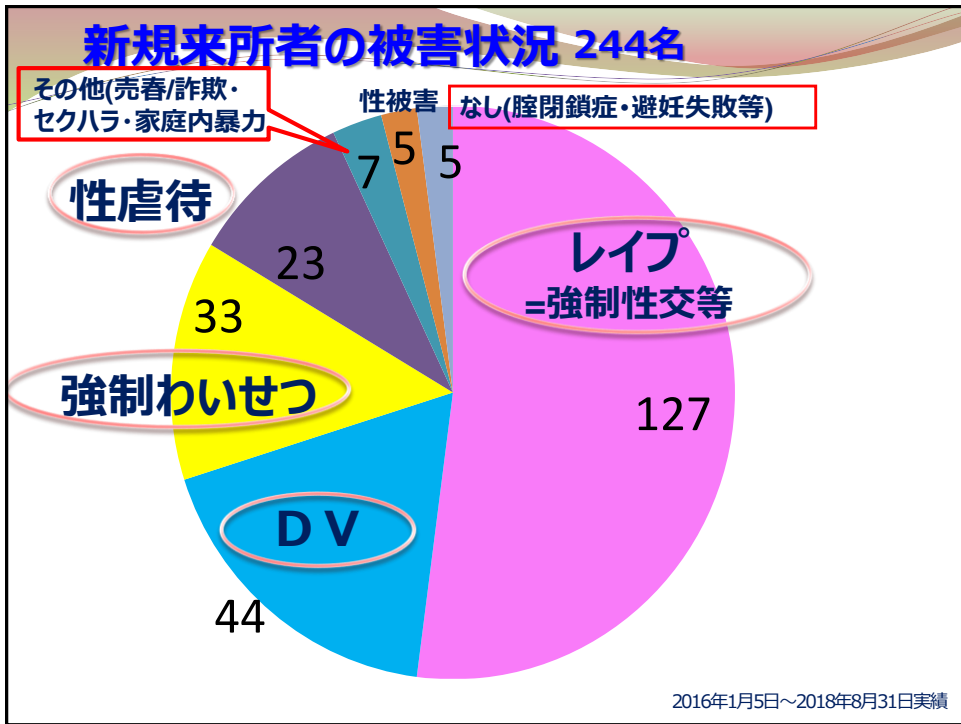


新規来所者の紹介経路 244名

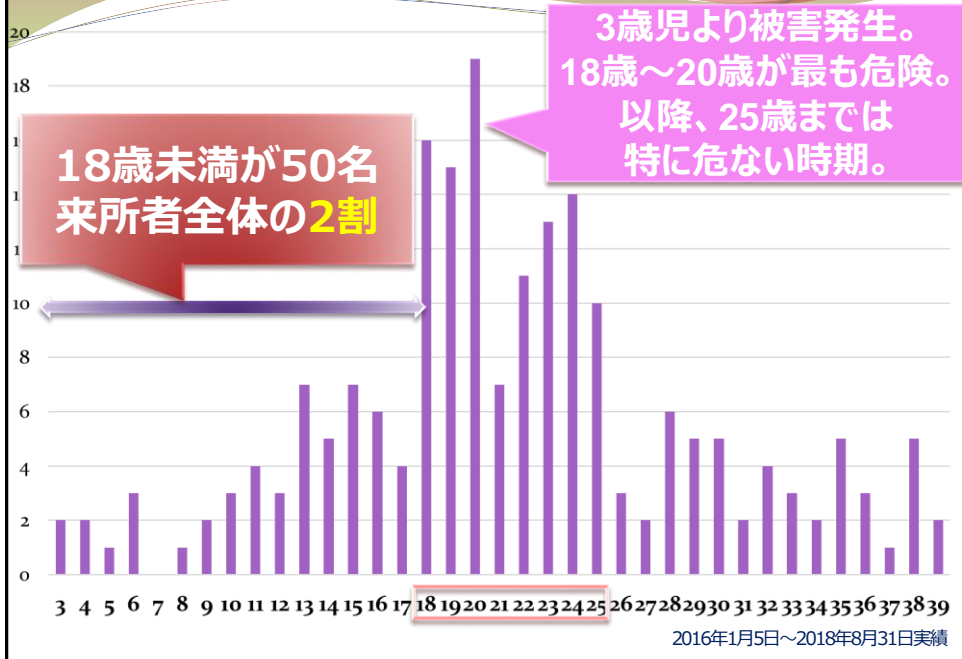


新規来所者の初回来所時間 244名

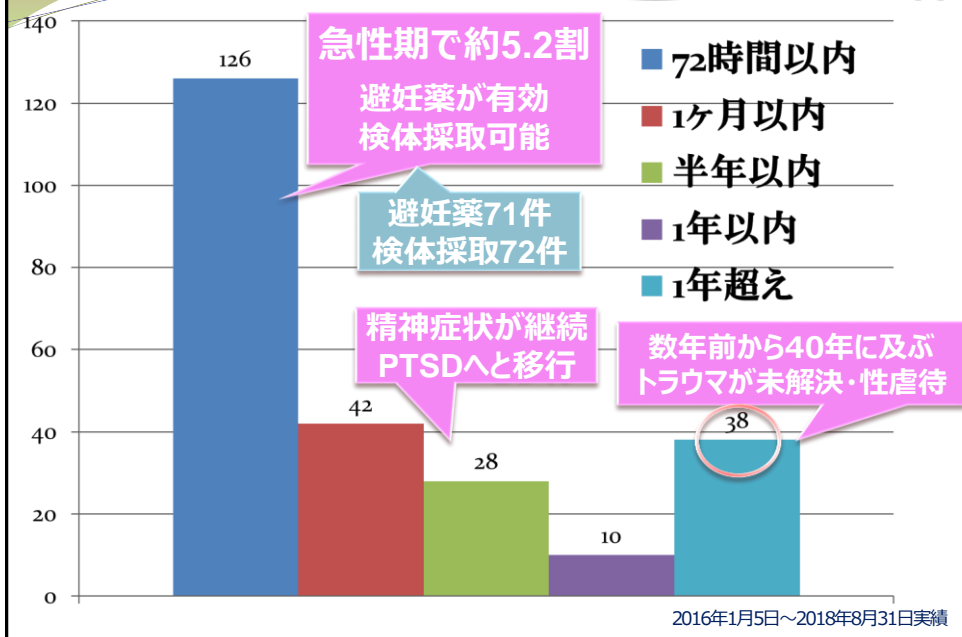


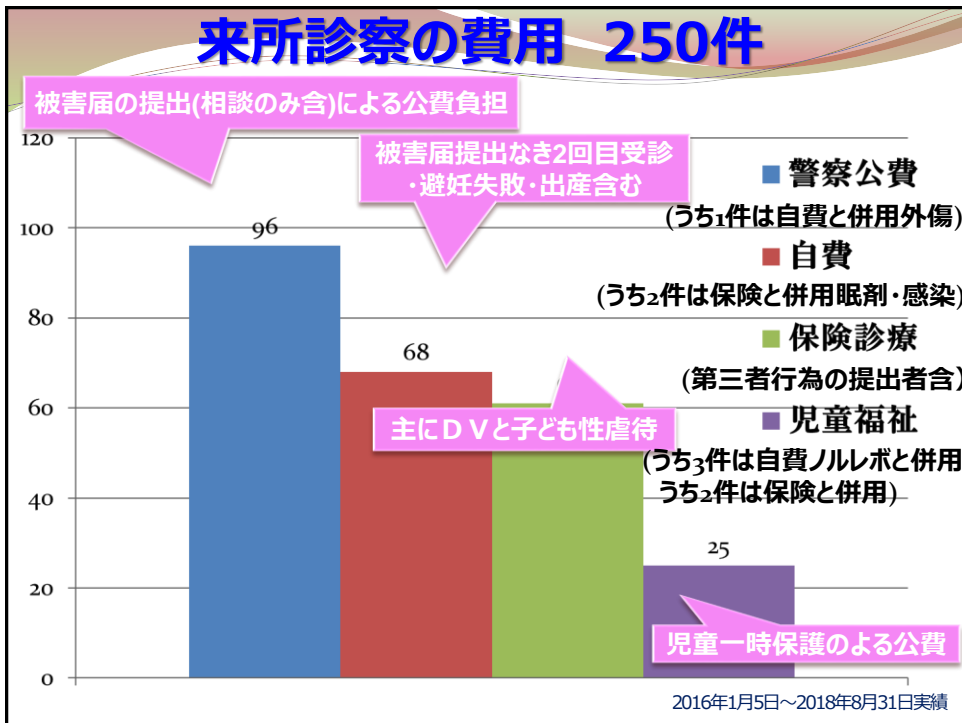
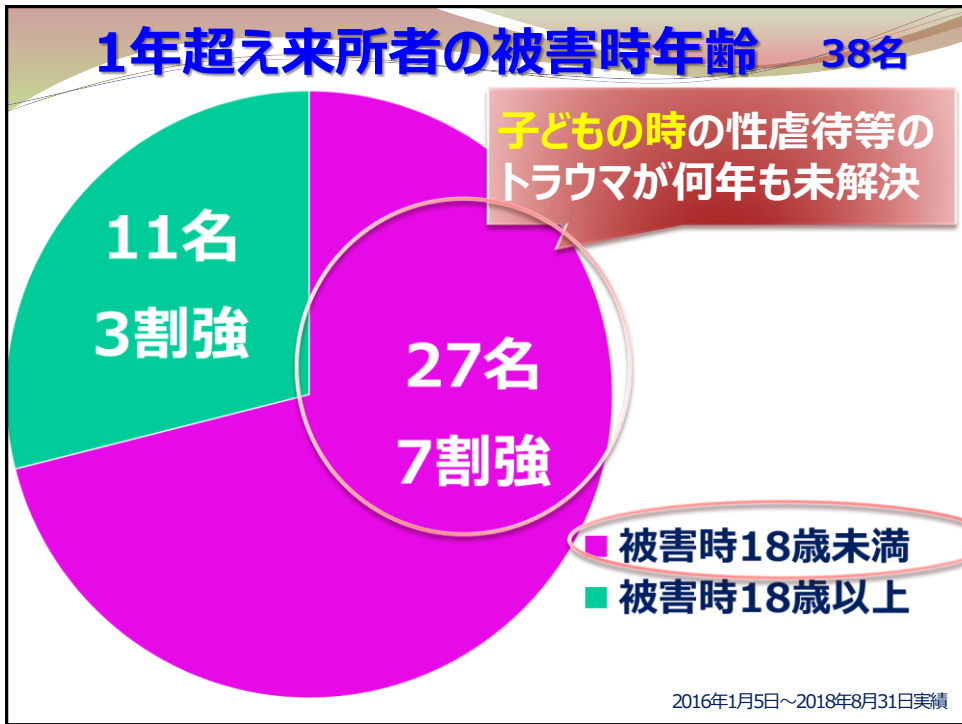


来所者244名中40歳未満の年齢別人数 203名



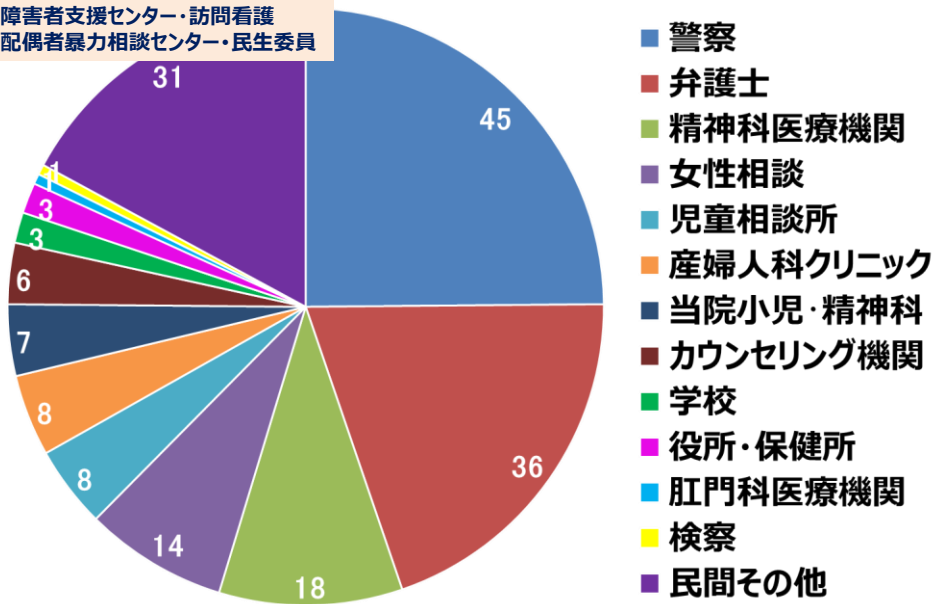
新規来所者の発生からの経過時間 244名





愛知思春期研究会・男性相談
 自助グループリボンの会・助産師会
 他県ワンストップセンター・CAPNA
 障害者支援センター・訪問看護
 配偶者暴力相談センター・民生委員

なごみからの紹介 181件



2016年1月5日～2018年8月31日実績

課題

病院拠点型ワンストップ支援センターの拡大

多機関多職種連携強化

人材育成と質向上

性教育の見直し

経済的支援